

俳人協会

福島県支部通信

支部長挨拶
橋本研二



令和元年度
役員会及び総会
第33回俳句大会・講演会



坂内佳祐先生を
お迎えして開催

第6号
発行人:橋本研二
俳人協会
福島県支部

皆さんのお蔭で、俳人協会福島県支部の本年度の行事が、滞りなく終了することができました。本当にありがとうございました。台風十九号は未曾有の災害をもたらし、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、兼ねてからの課題でした『福島吟行案内』も十月末に、俳人協会から、第二校正が上げつて来ました。何点かの指摘がありましたので、関係者に訂正をして頂き、十一月末には、それを俳人協会に送り、第三の校正が必要かどうかは、結果待ちです。来年度の総会までには刊行の運びとなる予定です。本当に長いこと、お手数をお掛けしました。皆さん佳いお歳をお迎えください。次年度も、よろしくお願いします。

総会は、午後0時、横山節哉副支部長の開会のことばにより開会。橋本研二支部長のあいさつの後、納谷一光副幹事長を議長に議題が審議された。役員の一部補充の承認に続き、前年度の事業・決算・監査報告と本年度の事業計画・予算案・規約の一部改正について、全て原案通り可決された。猪狩行々子副幹事長の閉会のことばをもって、午後1時に終了した。

(五点十二句)
繩固く男結びに冬構へ
湯川町 小林喜久雄

(五点十二句)
花冷の十指を組みて人を待つ
福島市 久保 鞠鼓

(五点十二句)
日を吸うて日暮に灯る吊し柿
三春町 大越 瑛子

梅雨の晴れ間の日差しが眩しい6月25日、本宮市の石雲寺会館において、本部より坂内佳祐評議員を講師に迎え、令和元年度福島県支部総会、第33回俳句大会が開催された。

(七点二句)
少年も葦毛も春の風となり
南相馬市 木幡 テイ
八十の軽きときめき春ショール
会津坂下町 齋藤 律子

(六点五句)
桜葉降るジーンズの似合ふ喜寿
田村市 村上ツヤ子

(六点五句)
離段に梅の匂ひの貝飾る
塙町 大友 康子

(六点五句)
初夢を少し脚色して語る
南会津町 柏倉 清子

(九点一句)
潮垢離の神輿も人も発光す
福島市 久保 鞠鼓

(九点一句)
花冷の十指を組みて人を待つ
いわき市 猪狩行々子

(九点一句)
潮垢離の神輿も人も発光す
いわき市 猪狩行々子

(九点一句)
桃の花流水尽きず人住めず
田村市 橋本 研二

(九点一句)
潮垢離の神輿も人も発光す
いわき市 猪狩行々子

(九点一句)
花冷の十指を組みて人を待つ
福島市 久保 鞠鼓

(九点一句)
絵蠟燭灯り深雪の鶴ヶ城
本宮市 葉貫 琢良

(九点一句)
割烹着まとへば母よ昭和の日
いわき市 西山 逢美

(九点一句)
帰村せし老農ひとり冬田打つ
南相馬市 西内 正浩

(九点一句)
機関車の名は金太郎山笑ふ
須賀川市 永瀬 十悟

(九点一句)
水草生ふ翅ある物は光り飛び
郡山市 加藤十美子

(九点一句)
こけし挽く工房の香や涼新た
三春町 佐久間晃祥

(九点一句)
眼底を覗かれてゐる原爆忌
会津美里町 小林 雪柳

(九点一句)
初電話やがて家族となる人へ
只見町 飯塚 恒夫

(九点一句)
碑に見ゆる志士の享年春疾風
塙町 田村美江子



総会・俳句大会へ参加された皆さんです。

令和元年度 (公社)俳人協会 第30回 東北俳句大会秋田大会	
主催・公益社団法人俳人協会 主管・俳人協会秋田県支部	令和元年9月8日(日)、秋田ビューホテルにおいて、俳人協会本部より常務理事の小島健氏と評議員の森岡正作氏のご出席をいただき、開催された。
☆大会賞 みづうみの五月雨あをし昼の酒 田村市 橋本 研二	第1部の俳句大会では、小島健氏による「俳句の力」と題する記念講演の後、事前投句と当日投句の入選発表、講評があり、表彰が行われた。
☆同人選 音立てて残る雪より撥ぬる竹 福島市 土田 啓三	第2部の懇親会では、秋田県芸術文化協会長で生田流箏曲大師範の野口裕子氏による「千鳥の曲」の演奏があり、優雅な中に和やかな宴であった。
タ立止み山一斎に立ち上る 三春町 佐久間秀男	次回、来年の第31回大会は、青森市の青森国際ホテルにおいて、開催される。

